

一般社団法人 日本機械学会

機械遺産：歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、主として機械技術に関わる歴史的遺産「機械遺産」(Mechanical Engineering Heritage)について日本機械学会が認定する。

江戸時代

明治時代

大正時代

昭和時代(戦前・战中)

昭和時代(戦後)

機械遺産で振り返る機械の歴史

江戸時代(～1868) *動態保存

年(西暦)	No.	名称	所在地	概要
文化5(1808)	33	旧釜岸水車場 *	東京	江戸後期に造られた精米・製粉用の水車場
1820年代	61	からくり人形 弓曳き童子 *	福岡	江戸時代のからくり(機巧)人形の最高傑作の一つ。輸入された機械式時計を参考に、日本文化を反映させた独自の技術で作られている。
天保6(1835)	39	旧金毘羅大芝居(金丸座)の廻り舞台と旋回機構 *	香川	わが国現存最古の劇場型木造芝居小屋で、廻り舞台の旋回機構は、現在の旋回座軸受の始祖。
嘉永4(1851)	22	万年自鳴鐘(万年時計)	東京	「からくり儀右衛門」こと田中久重が製作した機械式和時計
慶応元(1865)	58	旧横須賀製鉄所 スチームハンマー	神奈川	オランダから輸入された鍛造機械。江戸幕府の近代化政策の中で横須賀と横浜の造船所に配備された現存する2台

[メインに戻る](#)

[リストの先頭に戻る](#)

明治時代(1868～1912) *動態保存

年(西暦)	No.	名称	所在地	概要
元(1868)	1	小菅修船場跡の曳揚げ装置	長崎	幕末に築造された近代造船設備(現存では最初期のもの)
5(1872)	46	岡谷蚕糸博物館の繰糸機群	長野	フランス式、諏訪式繰糸機など官営富岡製糸場で使用。現存最古の製糸機械。
8(1875)	3	足踏旋盤<<明治8(1875)年伊藤嘉平治作	愛知	伊藤嘉平治(山形)が製作した鑄鉄製の足踏旋盤
12(1879)	67	「門形平削り盤」—工部省赤羽工作分局製—	愛知	1879(明治12)年、工部省赤羽工作分局で製造された。同所の『製造機械品目』により岩手県が発注し北上川の船舶修理所で使用された。その後、岩手県立実業学校(現在の岩手県立盛岡工業高校)に実習用機械として引き継がれた。
14(1881)	32	札幌市時計台の時計装置 *	北海道	現存する国内最古の塔時計を駆動する機械
18(1885)	17	活版印刷機 *	東京	明治期に盛んに使われた国産の活版印刷機
21(1888)	26	三居沢発電所関係機器・資料群 *	宮城	日本で最初に設置された水力発電所
22(1889)	53	池貝工場製第1号旋盤(現存最古の動力旋盤)	東京	池貝工場の創業者(池貝庄太郎と弟 喜四郎)が日本で初めて動力式の旋盤を製作。日本の機械工業発展の礎となった記念碑。
30(1897)	24	機械学会黎明期の学術図書	東京	機械学会誌創刊号、機械工学便覧(初版1934:昭和9)等
30(1897)	37	英国製50フィート転車台 *	静岡	東北地方の鉄道整備に伴い導入された英国製転車台
30(1897)	47	豊田式汽力織機	愛知	豊田佐吉により発明した綿布用小幅動力織機。木鉄混製、手織り機の20倍の性能と低価格で普及。
35(1902)	12	230型233号タンク式蒸気機関車	大阪	民間初の量産型蒸気機関車(現存最古の国産タンク式)
35(1902)	30	自働算盤(機械式卓上計算機)	福岡	画期的な機能・機構をもつ国産初の機械式計算機
35(1902)	35	ロコモビル(国内最古の自家用乗用自動車)	北海道	アメリカから初輸入された蒸気自動車の1台
38(1905)	27	三池港水圧式閘門と蒸気式浮クレーン *	福岡	日本の近代化を支えた石炭の積出港に設置された港湾設備

40	(1907)	38	としまえん「カールセル エルドラド」*	東京	回転木馬として現存する国内最古の遊戯機械。独で製造され、欧州、米国で巡回後、豊島園が購入し1971年から現在も可動。
41	(1908)	2	熊本大学の旧機械実験工場と文化財工作機械群*	熊本	工業技術の黎明期に用いられた研究教育施設と工作機械群
41	(1908)	4	陸用蒸気タービン	長崎	国産第1号の陸用蒸気タービン
41	(1908)	20	バクトン万能試験機	兵庫	船舶や機械の重要部材の試験に使われた材料強度試験機
41	(1908)	44	青函連絡船及び可動橋	青森・函館	青函連絡船は1988年まで80年間、人員輸送と物流の大動脈。可動橋は鉄道車両搭載時間を短縮した。
43	(1910)	31	電機事業創業期の国産誘導電動機及び設計図面	茨城	電気事業創業期に純国産技術のみで設計・製造された電動機
44	(1911)	79	二段膨張式船舶用蒸気エンジン*	埼玉	小型木造蒸気船『たちばな丸』(22トン)の主機関として搭載されていた出力97馬力の二段膨張式船舶用蒸気エンジンである。蒸気タービンに主役の座を譲る20世紀中期ごろまで活躍した。
45	(1912)	9	みのくち式渦巻きポンプ	愛知	井口在屋(いのくちありや)教授の発明による渦巻きポンプ
45	(1912)	25	東京帝国大学水力学及び水力機講義ノート	東京	井口在屋教授らによる水力学及び水力機械の講義ノート

[メインに戻る](#)

[リストの先頭に戻る](#)

大正時代(1912~1926) *動態保存

年(西暦)	No.	名称	所在地	概要	
2	(1913)	66	時代を画した国産腕時計「ローレル12型」、「初代グランドセイコー」、「クオーツ アストロン35SQ」	東京	ローレルは1913年、初代グランドセイコーは1960年、クオーツ アストロンは1969年に発売された。これら腕時計は、日本が誇る精密機器技術の発展過程を知るための象徴的な遺産である。
5	(1916)	36	アロー号(現在最古の国産乗用自動車)*	福岡	現存最古の走行可能な国産乗用自動車
5	(1916)	80	金銭記録出納器「ゼニアイキ」	東京	大阪の伊藤喜商店(現(株)イトーキ)が製造販売し、後に商標名「ゼニアイキ」として大ヒットした商品の一つである。売上金管理や防犯など必要最小限の機能を実現し、輸入品をはるかに下回る価格に抑え広く普及した。
12	(1923)	28	円太郎バス(フォードTT型)	東京	関東大震災で被災した路面電車の代替で導入された現存最古のバス
13	(1924)	16	無停止杼換式豊田自動織機(G型)第1号機*	愛知	豊田佐吉が長年の改良により完成させた画期的な自動織機
13	(1924)	45	幹線用電気機関車ED15形	茨城	純国産第1号の貨物・旅客用電気機関車。鉄道電化の原点に位置する。1960年に廃車まで東海道線や中央線で使用。

[メインに戻る](#)

[リストの先頭に戻る](#)

昭和時代 戦前・戦中(1926~1945) *動態保存

年(西暦)	No.	名称	所在地	概要	
2	(1927)	60	国産初の16ミリ映写機(エルモA型)	愛知	手回し式を採用した国産初の小型映写機で、映画文化や視聴覚教育の功績は大きく、映像文化の歴史的資料としても価値がある。
2	(1927)	86	国産初の地下鉄車両「モハ1000形1001号」	東京	我が国初の本格的地下鉄で最初に採用された車両である。輸入基幹部品と国産部品を組み合わせた、国内初の安全思想による打子式ATSを装備し、2017年には重要文化財に指定されている。
2	(1927)	88	鑄造用砂型の造型機械「C-11型生型造型機」	愛知県	国産初の生型(砂型)造型機で、鑄物工場の機械化に貢献した。繊維機械・自動車など大量の鑄造部品を必要とする機械工業の発展に寄与した。
3	(1928)	15	麦わら帽子製造用環縫ミシン	愛知	耐久性を克服し国産化に成功した麦わら帽子製造用環縫ミシン
3	(1928)	64	「清水港テルファー」—日本の貨物輸送を支えた港湾機械—	静岡	テルファーとは荷物を吊り上げて水平レールに沿って移動させるクレーンの一種、木材荷揚げ機械として1971年まで使用された現存唯一のものである。
4	(1929)	52	吉野山ロープウェイ*	奈良	国内最古のロープウェイであり、現役で観光客や住民の交通手段として利用されている。
4	(1929)	10	高周波発電機	愛知	ヨーロッパへの長距離通信を実現した長波送信設備の心臓部

5	(1930)	57	国産化黎明期の家庭用電化機器	神奈川	外国技術の国産化過程を示すとともに、その製品化により日本人のライフスタイルを大きく変えることになった機器
6	(1931)	70	鉄道跳開橋「末広橋梁」*	三重	四日市市の千歳運河に架かる片持梁型鉄道用可動橋としては現存唯一のものである。
7	(1932)	69	国産機械製造の礎『国産機械図集』	東京	国産品に対する正確なる知識を一般技術者に周知し、国産愛用促進につなげることで機械工学教授上の参考図提供目的に出版
8	(1933)	8	ヤンマー小型横型水冷ディーゼルエンジンHB型	滋賀	世界で初めて小型実用化に成功したディーゼルエンジン
8	(1933)	83	樫野埼灯台の光学系機械装置	和歌山	樫野埼灯台は、国内に建設された最初の8基の洋式灯台のひとつで、1870年に初点灯された回転式閃光灯台である。水銀槽式回転機械装置の全体像を知ることができる現役の航路標識である。
9	(1934)	94	新聞博物館の活字鑄造機	熊本	熊本日日新聞の新聞博物館で保存されている、国産初の活字鑄造機は新聞用の活版印刷に必要な1回限りの膨大な活字を鑄造するためのもので、1982年まで使われた。
10	(1935)	23	「旧筑後川橋梁」(筑後川昇開橋) *	福岡	東洋一の規模を誇る国内現存最古の昇開式鉄橋
11	(1936)	74	小林式定置木炭ガス機関	広島	戦中戦後の石油欠乏期に民需動力の多くを支えた木炭ガス機関で、分割可搬、石油発動機転用など独自の工夫がなされている。
12	(1937)	42	高砂荏原式ターボ冷凍機	神奈川	ターボ冷凍機(遠心式冷凍機)は圧縮機、クーラー(冷却器)、コンデンサー(凝縮器)で構成。当時の最新技術を結集。
12	(1937)	81	特許タツノ式ガソリン計量機 型式25号	神奈川	純機械式計量機として、地下タンク内ガソリンを計量機の手動ポンプで上部ガラス容器に汲み上げる商用ガソリン計量機の礎となった
15	(1940)	84	勝鬨橋(かちどきばし)(跳開部の機械設備)	東京	築地と月島を結ぶ、墨田川に架かる国内最大規模の可動支間を有する可動重量1000トンの跳開橋で1970年まで稼働した。
18	(1943)	18	コマツブルドーザーG40(小松1型均土機)	静岡	戦時下、飛行場建設等のために開発された国産初のブルドーザー

[メインに戻る](#)

[リストの先頭に戻る](#)

昭和・平成時代 戦後(1945～) *動態保存

年(西暦)	No.	名称	所在地	概要	
21	(1946)	62	「土の館」—北海道の土作りとトラクターの博物館—	北海道	トラクターや機械式農機具を系統だった保存展示を行い、伝承すべき営農哲学を実物教材(農業機械)によって示している
22	(1947)	29	機械式通信機器群(谷村株式会社新興製作所製) *	岩手	戦後復興期の通信を支えた機械式通信機器
22	(1947)	40	たま電気自動車(E4S-47 I) *	神奈川	戦後の石油輸入禁止期、立川飛行機(後のたま自動車)が、開発に着手、1947年に完成の乗用車タイプの電気自動車
24	(1949)	41	内燃機関式フォークリフト	滋賀	東洋運搬機製造(現TCM)が米国クラーク社製フォークリフトを参考に開発した、国産第1号の内燃機関式フォークリフト
25	(1950)	19	オリンパスガストロカメラGT-I	東京	世界の医療用内視鏡の原点となった胃カメラの試作機
25	(1950)	73	国産初の硬貨計数機	兵庫	小型で安価な国産初の硬貨計数機である。金銭処理の省力化・高信頼化に貢献した。
27	(1952)	14	カブ号F型(ホンダ自転車用補助エンジン)	栃木	オートバイなど小型二輪車の原点となった自転車用補助エンジン
28	(1953)	21	万能製図機械MUTOH「ドラフターMH-I」*	東京	日本初の設計製図機械
28	(1953)	34	親歯車ボブ盤HRS-500のマスターウォームホイール	静岡	直径5mの大歯車の歯切り加工ができる高精度歯切盤の心臓部
29	(1954)	59	大隈式非真円平軸受とGPB形円筒研削盤	愛知	戦後日本の精密機械産業発展の礎となった機械
29	(1954)	68	フジ自動マッサージ機 —世界初の量産型マッサージチェア—	大阪	わが国で発明された医療器械であり、国民生活とその福利厚生に大きな影響を与えた、ユニークな機械の一つである。

30	(1955)	54	卓上複写機リコピー101	静岡	わが国初の露光・現像一体の卓上ジエゾ湿式複写機。当時は「リコピー」が複写の代名詞となるほど普及
30	(1955)	72	「ミカサ」のオートマチック・トランスミッション —日本のAT車ここにはじまる—	東京	国産初のトルクコンバーター(流体変速機)を採用し、四輪自動車として開発された「ミカサ」に搭載されたAT(自動変速機)である。
33	(1958)	51	ステンレス鋼製車両群(東急5200系と7000系)	神奈川	鋼製車両に代わり、無塗装でメンテナンスフリー化を目指し、外板にステンレス鋼を採用。7000系はオールステンレスの原型車両である。
33	(1958)	78	スバル360-K111型	群馬	日本独自の自動車規格である軽自動車の最初のヒット作となった。軽量で航空技術に応用した工夫により、大人4人乗車可能で最高速度も83km/hを実現した。その斬新なスタイルから「てんとう虫」というニックネームも生まれるほど親しまれた。
34	(1959)	75	小型貫流式ボイラー「ZP型」	愛媛	設置面積が小さく、運転が楽で値段も安く、省エネルギーで、ボイラー技工がいなくても取り扱えるため中小企業・商店に普及した。
34	(1959)	92	エアレス塗装機	愛知	エアレス塗装機は、空気を使わず塗料に直接高圧をかけて噴射・塗装する。塗装品質の向上と作業環境の改善など、車両・造船・構造物・建築・道路塗など幅広い分野で使用されている。
37	(1962)	50	多能式自動券売機*	長野	世界初の多能式自動券売機。印刷機能により複数券種発売を可能にした。現在の切符券売機普及の契機となった機械
38	(1963)	82	移動式ブラシ付門型自動洗車機	愛知	日本初の移動式ブラシ付門型自動洗車機で、全世界に普及している自動洗車機の原点である。本機シリーズ累計販売台数は国内外を含めて12万台である。
30年代迄(～1960前半迄)		63	農機具「資料館」—農業機械黎明期の機械と史料の博物館—	埼玉	人力から畜力そして原動機へ、わが国農業機械化の歴史が一望でき、小規模農業に合った生産効率の向上過程が理解できる。
39	(1964)	11	東海道新幹線0系電動客車	大阪	鉄道高速化のさきがけとなった最初の新幹線車両
39	(1964)	13	旅客機YS11	東京	戦後、航空禁止令の解除後に初めて開発された国産旅客機
39	(1964)	49	ファスナーチェーンマシン(YKK-CM6)	富山	自社開発の務歯(むし)を間欠的に植えつける機構。わが国の製品の世界的シェアを飛躍的に高めるきっかけとなった。
39	(1964)	90	全自動手袋編機(角型)	和歌山	本機は、それまで指先やつなぎ部分など手で編まざるを得なかった手袋(主に軍手)を、手の平・手首まで一体で縫製できる端緒となった機械である。
40	(1965)	48	油圧ショベルUH03	茨城	純国産の油圧ショベル。2ポンプ2バルブ式で旋回など複合動作が可能となり、作業性を向上させた。
41	(1966)	71	自動包餡機「105型」 —世界の食文化を陰で支える—	栃木	包餡作業を機械化し、操作性と耐久性を向上した普及型である。食品業界の近代化に貢献し世界の民族食形成にも活用された。
41	(1966)	77	松川地熱発電所*	岩手	1966年に運転を開始した商用としては国内最初の地熱発電所である。50年を経て継続使用されている。再生可能エネルギー活用のさきがけとして、技術開発をリードし、様々の地熱特有の課題を解決してきたことの証となる設備群である。
41	(1966)	85	奥田トンネルのジェットファン縦流換気システム	大阪	道路トンネルの換気を国内で初めて、北九州有料道路の奥田トンネルで、西独Voith社製の縦流機械換気ジェットファンが1975年迄使われた。この方式は現在では、国内道路トンネルの大部分で採用されている。
42	(1967)	43	自動改札機	京都	オムロンが独自開発した完全磁気乗車券・定期券対応機の、第3世代の現存する最古の自動改札機
42	(1967)	5	10A型ロータリーエンジン	広島	世界で初めて実用化されたヴァンケル式ロータリーエンジン
43	(1968)	65	南極点到達雪上車(KD604,KD605)	東京、秋田	第9次南極観測隊の極点往復プロジェクト(我が国唯一)で、小松製作所で開発され、1968年12月19日南極点に到達した雪上車3台のうち2台である。
43	(1968)	93	ブラウン管ガラス製造装置	滋賀	ファンネルプレス機はブラウン管製造能力を飛躍的に向上し、1980年代には24インチ以上の大型テレビの世界的シェアを本国産機が独占した。
46	(1971)	7	民間航空機用FJR710ジェットエンジン	東京	我が国初の高バイパス比を達成した国産ターボファンエンジン
47	(1972)	6	ホンダCVCCエンジン	栃木	日本の排出ガス低減技術発展の契機となった自動車用エンジン

48 (1973)	89	組合せ計量機(ACW-M-1)	滋賀	サイズの異なるピーマンを組み合わせて一定の重さに仕分けする装置である。本技術は食品のみならず様々な産業分野に利用されている。
51 (1976)	56	機械式立体駐車装置 ロートパーク*	東京	純機械式駆動制御の立体駐車装置で、世界唯一の営業運転中
52 (1977)	76	全電気式産業用ロボット「モートマン-L10」	福岡	日本国内で初めて開発・販売した産業用ロボットの礎となった機械で、アーク溶接やシーリング作業を担い自動車産業などで活躍した。
55 (1980)	55	ウォシュレットG(温水洗浄便座)	福岡	日本で一般家庭向けに温水洗浄便座を新技術により開発・販売し、日本人の生活様式や設備環境を一変させた。
56 (1981)	87	有人潜水調査船「しんかい2000」	神奈川	日本初の有人潜水調査船「しんかい2000」(1970-1976)の後継機として潜水深度2000mまで探査でき、1981年から20年以上運用された。
62 (1987)	91	日本工業大学の所蔵する歴史的作業機械群*	埼玉	日本工業大学の工業技術博物館は国内最大規模の作業機械展示施設。歴史的作業機械232台が年代順に陳列され多くが動態保存されている。かつて操業していた町工場の主要部も展示されている。

[メインに戻る](#)

[リストの先頭に戻る](#)

(東北支部WEBページ資料を元に大幅に加筆修正し、2018年認定まで記載しました)